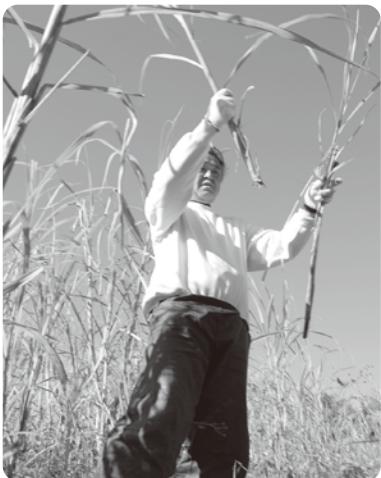


組合のひろば

● 南勢志摩さとうきび振興企業組合



西村理事長 さとうきび畑で

さとうきび生産拡大へ企業組合を設立

7月6日、南勢志摩さとうきび振興企業組合(西村昌人理事長)が、設立されました。

今後、志摩市内でさとうきびの生産拡大を目指すとともに関連商品の開発に取り組みます。

西村理事長は6年前、約1650平方メートルの休耕地を利用して、海藻を肥料にさとうきびの無農薬栽培を始めましたが、酒造会社から受注が入るなど需要が高まり、栽培地を約1万1900平方メートルに拡大し、さとうきびを原料とした菓子の商品開発など新たな事業展開を図るため、企業組合により法人化しました。

西村理事長は、「さとうきび栽培は、肥料は年1回だけで水やりは不要なので、休耕地対策にもなります。」と栽培に意欲を燃やします。

また、「今後は、組合が生産したさとうきび、あるいはさとうきびの苗を仕入れて、販売店や飲食店、加工業者、地元への観光客等に販売する予定です。」と話されました。

小規模事業者組織化指導事業・取引力強化推進事業は、中小企業・小規模事業者が連携して、共同事業の活性化や受注拡大等取引力強化促進を図るための取組みに対して助成しています。平成28年度実施事例から1つご紹介します。

取引力強化推進事業を活用して『車用マグネットシートを作成』

事業概要 組合員22社で車用マグネットシート44枚と組合員22名の似顔絵を作成した。

成果 組合員においては、各店舗において、12月10日から1月15日の間、年末年始の大売り出しを開催し、その間、各組合員の業務用車両に車用マグネットシートを着用した。また、その時期での組合員が発行する顧客へのゆうメール便のチラシには組合員の企業名のところに似顔絵も掲載し、気軽に相談できるようなイメージアップを図った。

その結果、回収した顧客アンケートからはマグネットシートを着用しているため「店名が分かりやすくなっ」、「組合に加入しているため安心感がある」等の意見があり、組合員店舗のイメージアップに繋がった。

組合においては、今まで、個々の店舗において、組合名を大きくアピールすることは少なかったが、車用マグネットシートを各組合員の業務用車両に着用することで、組合ブランドが統一され、今まで組合を知らなかっ

た一般消費者への組合名周知に繋がると同時に、組合員の意識の高まりがみられた。

また、家電の買い替えが増える年末年始の大売り出し期間に張り出したため、より一般消費者への組合名の宣伝に努めることができた。お客様アンケートからも、マグネットシートを見て、「みえ未来家電」という組合名を知ったという感想が多くあり、組合名の周知に繋がった。

今後の取組みの方向 組合では、本事業にて組合の名称及び活動の宣伝を強く図ることができたため、今後も本事業の実績を活用し、地域に根差したサービスを行う家電販売店が集結している当組合を宣伝することによって、組合員の売上を圧迫する大型家電量販店に対抗できる力をつけていきたい。今後は、本事業で作成した、ロゴ及び似顔絵データをチラシ等にも活用し、DMメール等で配布し、組合ブランドの統一感ある宣伝を行っていく。



組合員の車に着用した車用マグネットシート